鳥大附小　研究通信　8

10 月 26 日（土）に鳥取大学附属小学校において、研究発表大会を開催しました。県内外からたくさんの方々にご参加いただきました。授業を公開した後は、参加された先生方と提案した授業づくりについて協議しました。今後も広く、教育研究の成果や附属学校部の取組について情報発信をしていきます。

大会の運営に当たっては、共同研究者の皆様、懇話会の皆様、鳥取大学の学生のみなさんにいろいろな場面で支えていただきました。厚くお礼申し上げます。

全体会の様子

鳥取大学の矢部敏昭先生をお迎えして「学びのプロセスと授業評価」についてご講演いただきました。教科の学びは人間の営みそのものであり、教科の学習を通して、どう生きるのかを子供自身が主体的に創造していく力をつけていく必要があることなど、教師の身構えや教科の本質を踏まえた授業づくりについて具体的に話していただきました。子供の評価や授業の評価を通して、研究の柱である「学びのプロセス」の質を、今後さらに高めていきたいと思います。

矢部敏昭 先生のご講演の様子

【道徳科　４年生】

杉谷義和教諭による道徳科「人に親切にするとはどういうことなのか」の提案授業が 4 年生で行われました。子供たちは、道徳教材のお話と自分の経験を重ねながら本当の親切について友達と話合いを重ねました。「自分のことだけでなく、相手がどうしてほしいのか想像することが大切」「大丈夫ですか？〇〇しましょうか？と相手に最終的な判断を委ねる姿勢が大切」「電車の中という状況なら、周りで寝ている人や休んでいる人にも配慮しながら相手への親切を考えるべき」など、一人一人が自分なりの親切を考える姿が見られました。

道徳科の授業の様子

分科会では、道徳の授業で活用された「名前カード」と「心のものさし」が一人一人の思いや考えを可視化させ、多様な考えを生み出すしかけになっていることや、一人一人の学びの様子や変化を捉えやすくさせるものになっていて、明日からの授業に生かせる工夫があったと、参加された先生から感想をいただきました。今後は、「気づいてはいるけれど、やってみることはなかなか難しいこと」についても共感できるような、人間の弱さへの理解（人間理解）にも着目した授業づくりと指導を考えていきます。

分科会（道徳科）の様子